

同朋大学仏教文化研究所における調査記録アーカイブズの構築に向けた一考察

## 《研究ノート》

# 同朋大学仏教文化研究所における 調査記録アーカイブズの構築に向けた一考察

日比野 洋 文

## はじめに

筆者が所属する同朋大学仏教文化研究所（以下、研究所と略す）は1977年の開所以来、全国各地の真宗大谷派寺院に存在する歴史資料を調査している。その目的は端的に言う、「初期真宗教団形成の過程の研究」であり、収集した情報は、主に写真と調査カードに記録され保管されている。このような一つの研究目的で、真宗大谷派寺院を広範囲にわたって調査した事例を筆者は他に知らない。研究所が開所から現在までに収集した情報（調査記録）は、高い学術的価値を有するものであると言って過言ではないだろう。そして現在、研究所では上記の調査記録を将来にわたって保存すべく、すべての調査記録を電子データ化し、アーカイブズの構築を計画している。しかし、構築を実現するには、解決しなければならないいくつかの課題を抱えている。

まず一つが、紙媒体と電子媒体の調査記録の混在である。調査記録は主に写真・調査カード・調査目録で構成されるが、写真ならば、2000年代初頭以前のはフィルムで保管され、以後のものはデジタルカメラを用いて取得した画像で保管されている。調査カードについては、現在でも調査の際に使用しているが、写真がフィルムからデジタルに移行したのとおよそ同時期から、カードに記録された情報をもとにExcel等を用いて各寺院ごとの所蔵品目録が作成されている。それ以前については目録の作成はまちまちである。これらの調査記録をもとにアーカイブズを構築するとすると、過去の紙媒体で保管されている資料をすべて電子データ化し、現行の電子媒体の資料（データ）と統合する必要がある<sup>\*1</sup>。

もう一つの課題が、調査記録には写真と調査カード（調査目録）があると述べたが、これら二種の資料の情報の一元化である。現在、写真と調査カード（調査目録）は、紙媒体と電子媒体のものが混在していることや、過去の写真ならば保管方法に配慮が必要なフィルムという形態であることもあって、別々に保管されている。そしてこれらの写真と調査カード（調査目録）には、互いを結びつけるための管理番号などは付されていない。そのためアーカイ

ブズの構築を進めるには、これらの調査記録を電子化するだけでなく、写真と調査カード（調査目録）という画像と文字の異なる形態の情報を一元化する必要がある。

そして最大の課題が、アーカイブズをどのように設計するかである。独立していた種々の調査記録を統合し、アーカイブズを構築するとなると、膨大な情報を一括で扱うということになるから、その設計は極めて重要である。極端なことを言えば、設計次第で長年にわたって収集した調査記録が、情報の雑多な集合体になってしまう恐れすらある。何しろ現在でも真宗寺院の調査は継続しており、調査記録は年々増え続けている。調査記録を将来にわたって混乱なく管理・利用するためには、体系的な管理方法や、保存すべき情報とは何かを検討する必要がある。

そこで本稿では、今日までに研究所が真宗寺院の学術調査にともない作成した調査記録を精査し、それらをアーカイブズとして保存・管理していく上での課題と、その解決策を検討する。

## 1 調査記録の管理方法

まず、膨大な情報を混乱なく管理する方法から検討しよう。

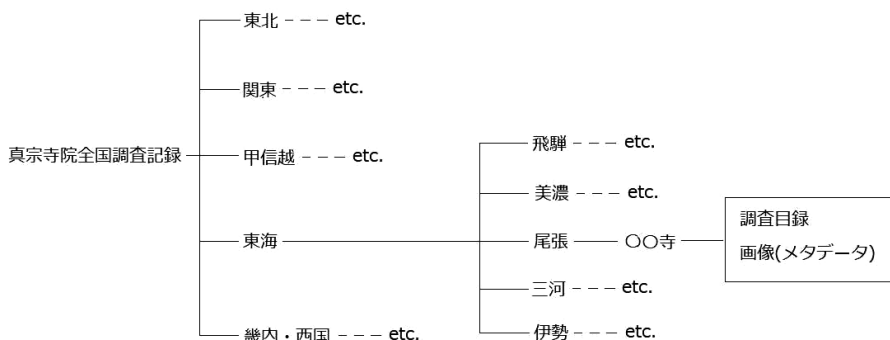
従来、調査カードについては調査対象の寺院ごとに一括されており、さらにそれらは寺院が所在する都道府県別に整理され保管されている。一方、2000年代以降にデジタルカメラを用いて撮影した画像については、すべてpcに保管している。画像は寺院ごとにフォルダで管理されているが、そのフォルダは調査カードとは異なり都道府県別に整理されていない。細かく整理しなくとも、pcにはフォルダ・ファイルの検索機能が備わっているため、その機能を頼ることにより、差し当たり管理上の不都合は生じていないようである。

しかし、先にも述べたように、すべての調査資料の一元管理を実行するとなると、膨大な情報を体系的に管理する必要が生じよう。管理が行き届いていない情報は、雑多な情報の集合体でしかないだろう。

肝心の管理方法としては、先述の調査カードのものをベースとしたい。たとえば管理方法を樹系図にして表すと以下ようになる。

従来の調査カードの管理方法をベースとした理由は、根本から方法を変更してしまうと、今後、アーカイブズを管理していくうえで混乱が生じる恐れが排除できないからである。そのため従来の管理方法をベースとし、問題点が発見されればそれを改善していくことが妥当と考えた。

写真（画像）と調査カード（調査目録）の情報の一元化の方法については、写真（画像）とそれに対応する調査目録の項目に、同一の資料番号を付し一元的に管理したい。また、写真（画像）に史料情報をメタデータとして付すことで対応したい。



ひとまず調査資料の管理・分類方法については上記を基本として進めていくことにしよう。では保管する情報については、調査目録と画像データだけで不足はないのだろうか。それを次に検討する。

## 2 保存すべき情報

これまで述べてきたように、研究所がアーカイブズを構築する目的は、開所から現在までに収集（作成）した調査記録の保存である。寺院調査のプロジェクトは途切れることなく継続しているから、調査記録は研究所の開所から現在までの活動の証であるとも言えよう。また、今日までに収集（作成）してきた調査記録は、研究所のアイデンティティでもある。ならば、こうした研究所の歴史からすれば、調査記録に加えて、当該分野の研究に継続して取り組んできた研究所のデータ化されていない記憶も、記録として保存すべきだろう。筆者が考える保存すべき記憶とは、以下のものである。

- ①各寺院が調査対象に選定された経緯
- ②史料群（調査結果全体）の概要
- ③各寺院における調査対象となった歴史資料の範囲（記録の範囲）
- ④再調査の必要性の有無

まず、①については研究所に保管されている調査記録は、言うまでもなく研究所のプロジェクトとして作成されたものである。したがって調査目的が「初期真宗教団形成の過程の研究」で一貫していたとしても、調査当時どういった観点からその調査、研究に取り組んでいたかを記録し保存することは、今後、研究所や当該分野の歴史（研究史）を知るうえで重要となろう。

②については、研究所に保管されている調査記録は、個々の史料の写真、調査カードという、言わばミクロな視点での情報である。一方、寺院に保管されていた資料群という単位、言わばマクロな視点での情報は記録されていない。必ずしも史料群というマクロな単位から、

学術的に価値がある知見が得られるわけではないだろう。しかし、学術的な価値の有無に関わらず、史料群の概要の記録を作成し、保管することは、体系的なアーカイブズを構築する上で重要なのではないだろうか。

③については、調査開始ごく初期の頃は調査目的が「初期真宗教団形成の過程の研究」ということもあって、当該分野とは関連の薄い近現代の史料などについては記録を取っていなかった<sup>42</sup>。事と次第によっては、今後、未記録の情報が必要となる場合もあるだろうから、当時を知る研究所関係者の記憶頼みではあるが、可能な範囲で所蔵品の概要を新たに作成して保存するの適当だろう。

④については、③と重複する部分もあるが、かつて調査の際に、人員や時間の都合もあって、何らかの史料が保管されていると思しき文書箱等の存在を確認しても、手が回らず未調査に終わってしまったことがあるという。そのため再調査の必要がある寺院もなかには存在するようである。しかし、これは当時の状況を知る研究所関係者しか知り得ない情報である。したがってこの情報は、研究所がプロジェクトを継続する上で必要不可欠なものであるから、研究所関係者の記憶を頼りに、調査を行ってきた各寺院における再調査の必要性の有無を確認し、その記憶を記録として保存すべきである。

筆者が考える記録として保存すべき研究所の活動の記憶は、以上である。もっとも上記を実行に移すとなると、研究所の活動の記憶と、寺院で記録した史料の情報という性質の異なる情報を一括で保存するということになる。したがってアーカイブズを雑多な情報の集合体にしないうえにも、事前に情報の管理・分類方法を入念に検討しなくてはならないことは明白である。この管理・分類方法についても検討したいところであるが、今はこの問題に触れる余裕がない。筆者の今後の課題としたい。

## おわりに

本稿では、同朋大学仏教文化研究所が開所から現在までに収集した真宗寺院における歴史資料の調査記録をもとに、アーカイブズを構築するうえでの課題と、その解決策を検討した。しかし、検討したと言っても、本稿で述べたことはあくまで課題の表面部分でしかなく、しかも構想でしかない。研究所におけるアーカイブズの構築は始まったばかりであって、何もかもが手探りの状態であることに変わりはない。そもそも本稿で検討した調査記録の管理・分類方法が真に適当であるのか、保存すべき情報の不足は解消したのか、その確証もない。もっとも、アーカイブズを構築するうえで正解はないだろう。むしろ、そのあり方を日々、点検・検討することが肝要だろう。筆者もその心持ちでアーカイブズの構築を進めていきたい。

〔注〕

- \* 1 現在、写真フィルムについては、経年劣化が進行していることもあって、これを将来にわたって有効に保存していくために、専門業者に委託しデジタル画像への変換を進めている。2000年代以前の調査カードについてもExcel等を用いて目録の作成を進めている。紙媒体と電子媒体の調査記録の混在の状況については近々、解消の予定である
- \* 2 ごく初期の頃をのぞき、同一の場所から出現した史料は、調査目的に関わらず、すべて記録をとっている。

〔付記〕

本稿は国文学研究資料館開催・平成30年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）短期コース修了論文を加筆・訂正したものです。研修会では多くの方々より御指導いただきました。その御学恩に心より感謝いたします。